

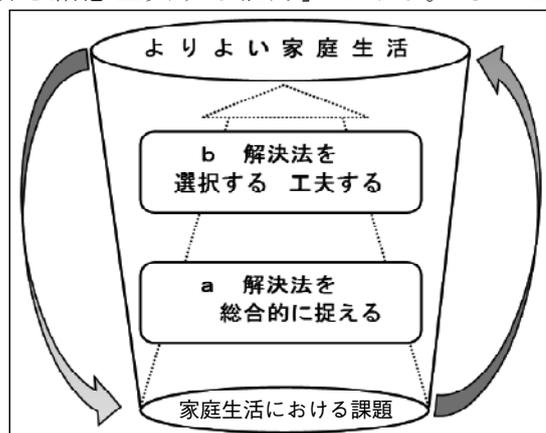
家庭科

1 育成したい「思考力」

- a 生活事象を多面的に見直す観点を見だし、解決法を総合的に捉える力
- b よりよい生活づくりに向け、自分の家庭生活に適した解決法を選択したり工夫したりする力

家庭科の学習において育成すべき思考力は、「生活を創意工夫する能力」である。そのためには、家庭生活について見直し、身の回りの生活における課題を見つけ、その解決を目指し、家族の一員として自分なりに工夫していく必要がある。

そこで、本校家庭科では、育成したい「思考力」を「生活事象を多面的に見直す観点を見だし、解決法を総合的に捉える力」と「よりよい生活づくりに向け、自分の家庭生活に適した解決法を選択したり工夫したりする力」の二つの段階に分けた。この二つの思考を通して、さまざまな生活事象を見直し、他者と共生しながらより楽しく豊かな生活をつくっていく力を育成することができると考えた。



【家庭科「思考力」モデル図】

a 生活事象を多面的に見直す観点を見だし、解決法を総合的に捉える力

まず、一つの生活事象に対して課題を見だし、それらを自分や家族の家庭生活から多面的に見直していくのである。例えば、朝食について「毎日メニューが決まっている」「野菜が少ない」等の課題に対し、それぞれ、栄養のバランス・色どり・量・時間・経費等の、見直すための観点をさまざまに見いだすのである。

次に、それらの観点で課題の解決法を多様に探り、その解決法を長所・短所の両面から比較・分析し、総合的に捉えていく。例えば、「野菜が少ない」という課題に対し、必要な摂取量の観点から「たくさん食べればよい」、バランスや色どりから「種類を増やせばよい」といった一般的な解決法が見えてくる。そして、「たくさん食べればよい」という解決法に対して、実際に食べられる量や調理にかかる時間という観点から、「いためたりゆでたりすると、生よりたくさん食べられるが、調理に時間がかかる」「生は簡単に調理できて、時間も短くてすむ」と、より総合的に捉えていく。下に挙げるのがこのaの「思考力」の実践例である。

第5学年「冬の快適生活をプロデュース」の実践例より

【本単元で育成したい「思考力」】

衣服の暖かい着方や、暖かい住まい方を多面的に見直し、解決方法を総合的に見いだす力

衣服・住居のどちらも、外気を遮断し、内側に暖かい空気層を作って留めることで暖かくなる。本単元では、まず、衣服の枚数や厚さを変えて保温効果と熱伝導の違いを実験で確かめた。その実験により、衣服の枚数を多くしたり、厚さを厚くしたりすることは、衣服と体との間に空気層を作り、断熱効果を上げていることに子どもたちは気付いていった。次に、空気層は風によって壊れやすいことを実験で確かめ、空気層を留めるための効果的な方法を考えた。このようにして、衣服の暖かい着方を多面的に見直すための観点として、身につけている衣服の枚数・厚さ・順序

・形・開口部等を見だし、「自転車に乗る時は、風を通さないジャンパーを着るといいね。」「ジャンパーの中には、もこもこした厚手のフリースを着よう。」とさまざまな解決法を総合的に捉えていった。また、住居気候でも同様にカーテンやカーペットの素材を厚くし、戸や窓等の開口部を小さくする工夫により空気層を暖めて逃がさないようにする方法を考えた。「戸を開け放さず、こまめに閉めるほうがよい。」「冬は早めにカーテンを閉めて、冷たい外気が室内に入らないようにしている。」等、生活の中の何気ない行動から解決法を捉えることができた。



【暖かい着方を見だす】

このような、「冬の着方や住まい方について、暖かく過ごすためのさまざまな観点を見だし、より多面的な視点で見直すことにより、総合的に解決法を捉える力」がaの「思考力」にあたる。

b よりよい生活づくりに向け、自分の家庭生活に適した解決法を選択したり工夫したりする力
たとえ一般的・総合的に解決法を見出したとしても、個々の家庭にとっては必ずしも有効とは言えない場合がある。そこで、aの「思考力」で見出した解決法の中から、自分の家庭の状況に照らして、最も適していると思われる解決法を選択したり、よりよいものに工夫したりしていく力をbの「思考力」として位置づけた。

例えば、よりよい朝食を考えていく場合、一般的には、ごはんのみそ汁を基本にして献立を作成すると栄養バランスが整うとされている。しかし、それを必ずしも実生活に活用できない場合がある。そこで、「朝は忙しいので、我が家では手早く準備できるパンと卵等のおかずがよい」「みそ汁は調理に時間がかかるので、副菜は生野菜サラダにする」と解決法から自分に実践可能なものを選択したり、「朝食は難しいが、夕食は栄養のバランスを考えたメニューにする」と1日を通した工夫を考えたりするのである。以下に、実践例を紹介する。

第6学年「気持ちよく暮らそう！ 私たちのすまい」の実践例より

【本単元で育成したい「思考力」】

我が家にとって最適な「暖かくする工夫」を、そこに暮らす自分や家族の視点から選択する力

本単元では、「家で快適に過ごすための課題」の中から「暖かく暮らす工夫」を取り上げた。ここでは、安全性、経済性、利便性、有効性等から、自分の家庭では何を優先して選択・工夫すればよいのかを見極める力を育てることが必要となる。

子どもたちは、実験や資料から、どの暖房器具にも長所・短所があることに気付き、「短所を工夫や知恵で補う解決法」を考えていくことができた。しかし、その過程で得られた多くの情報から、自分の家庭生活では何を、どういう視点で選ぶことがよいのかが分からない様相が見られた。そこで、「Aさん一家」というモデルを用いて共通に考える場を設定した。すると、「お父さんはたばこを吸うから換気をしっかりしてほしい。」「ストーブを使っていると乾燥するからやかんを置いたらいいよ。」「3歳の妹が遊ぶ居間は、安全性を考えてエアコンやホットカーペットがいいかな。肌が弱いから、乾燥しないように加湿器を使うといいよ。」等、家族の健康や安全に配慮した選択をするだけでなく、アドバイスを考える姿が見られた。

このような「自分の家での実践を考える際にも、それぞれの家庭の状況に照らし合わせながら解決法を選択する力」がbの「思考力」にあたる。

2 思考活動を保障するために

○ 視覚等の感覚に働きかけることで、イメージを広げる

第6学年「夏を快適に過ごす工夫を考えようー衣服の選択と洗濯ー」では、夏の衣生活に焦点をあて、「快適さ」に関わる条件を追究した。本時は、子ども自身が涼しくなると考えた私服を実際に着て授業を行った。「涼しくするためには、Tシャツ1枚がよい」に対して「暑くても下着は必要」という意見が出され、下着を着用する意味について話し合った。

ニンヒドリン試薬により汗等の汚れを紫色に検出したTシャツ（下着あり・なし）を提示すると、「下着はこんなにも汗を吸い取っている。」「下着なしで着たTシャツには汚れが直接ついている。」と衣服に付着した汚れのイメージを広げることができた。

その後、「快適さ」を「涼しさ」だけでなく「清潔さにも着目して考える」という新たな視点を見だし、着替えや洗濯の必要性を考えることができた。



【汚れ方の違いを視覚化】

○ 学習対象の変化の前後と、その間を明確にする

第5学年「家族へプレゼント！ーWエコバッグを作ろうー」では、経済的で環境にもよいWエコバッグを製作する際、家族のリクエストを具現化するために、製作過程のどこでどのような工夫をしていけばよいのかを明確にする必要があった。そこで、デザイン構想から完成までの過程を板書上で示すとともに、各過程における工夫のポイントを共有できるようにした。例えば、布選びの段階においては、4種類の布を比較し、選んだ理由について話し合った。その際、板書上で家族のリクエストと布の特徴とをつなぐことで、「布の特徴が自分が作ろうとするバッグに合うかどうかで判断したらよい」と気づき、「小さくたためるバッグにしたいから…」と自分の構想に合った布選びを考えていった。



【補助黒板で共有】

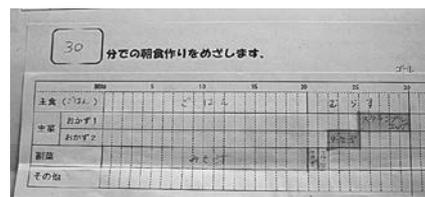


【リクエストと布の特徴をつなぐ】

○ 学習対象をまとめて配列するとともに、操作や表出等による作業化を図る

第6学年「朝食はまかせてねー栄養バッチリ！時短にトライー」では、「おかず1（卵料理）」に合わせる主菜のもう一品「おかず2（肉や魚の加工食品）」を何にするかを考えた。しかし、複数のおかずを組み合わせる調理した経験が少ないため、それぞれの食品の調理時間や、複数の食品を手際よく調理する手順といった「調理の過程」の理解が難しかった。

そこで、主食とおかずの調理時間をまとめて帯グラフで表した「スケジュールシート」を配布し、それぞれの調理時間と朝食全体の調理手順を視覚化して示すことができるようにした。グラフを上下に並べたことで「ベーコンエッグなら、おかず1・2を一緒に調理できる。」「パンは最後に焼こう。」等、各自がグラフ上に段取りをつけていくことができた。その結果、調理における同時作業の可能性や家族にできたてを提供するための調理の順序を、自分なりに工夫していこうとする思考が促されていった。



【調理時間と手順を集約して視覚化】

「分節・選択化」については、次頁以降の実践例で詳細を記載する。